

# 「次世代型検診センター(検診2.0)」への変革に向けた取組み

～健診ビッグデータ利活用、デジタルで繋がる地域のハブ拠点、デジタル技術の活用～

総事業費：16,500,000円

事業者名：一般社団法人中部地区医師会(所在地:北谷町/業種:医療)

## 事業内容

### 事業目的/概要

- 事業目的  
中部地区医師会検診センターのデジタル化
- 事業概要
  - ①基幹システムとWEB予約システムを連携/SMS配信ツールを活用したオペレーション改革
  - ②巡回型検診のデジタル化に伴うオペレーション改革
  - ③健診結果のデジタル化推進/ペーパーレス化推進によるコスト改善
  - ④オンラインツールを活用した保健指導の導入
  - ⑤健診データ利活用の環境整備(データの蓄積や目的・方針・運用ルールの検討等)

### 連携IT企業

- 事業者名：沖縄セルラー電話株式会社

### 本事業で見込まれる効果

- 月間平均総勤務時間の約5%に相当する970時間/月の削減効果を見込む。
- 970時間の削減は1人あたり月平均勤務時間150時間とした場合、従業員6名分の削減効果にあたり、削減できた時間分は新たな業務(新規利用者の獲得・健診データ利活用の検討等)に取り組むことができ、生産性向上が図られる。

### 本事業終了後のビジネス展開や今後のDXに向けた取組

当センターの受診者検診データ、医療連携ネットワークのデータ、民間事業者にて提供しているPHRデータ等と連携し、健診ビッグデータ基盤を構築し、そのビッグデータを産・官・学・連携にて分析し、受診者に合った検査メニューの推奨を行う。また、集まったデータを自治体や法人などに提供し、沖縄県民の健康増進施策等に活用頂くことで、沖縄県が掲げる「2040年、男・女とも日本一の健康長寿復活」を目指す。

## 事業概要スキーム等

### 健診ビッグデータの利活用



～めざす姿～



県内で最大規模の地区医師会である中部地区医師会が中心となり、各種団体と連携し、地域住民の各種データのデジタル化を図ることで、デジタルでつながる地域のハブ拠点としての役割に中部地区医師会検診センターが担い、医療の効率化・患者ファーストの社会を構築する。